



遠藤周作没後25年

—聖三木図書館とのゆかり



山根 道公

ノートルダム清心女子大学
キリスト教文化研究所教授

2021年は、国民的作家で狐狸庵先生と親しまれ、20世紀を代表するキリスト教文学の作家の一人として国際的にも高い評価を得た遠藤周作の帰天25年の年に当たり、記念出版や、雑誌・テレビ等での特集など様々に注目されました。それらに関わりながら、特にこのコロナ禍にあって、遠藤文学の現代における意義を改めて思いめぐらす年でした。

まず、1月には遠藤氏の妻の遠藤順子夫人が帰天されました。順子夫人からは様々な話を伺いましたが、「10回入院し8回手術を受けた夫は病氣とワンセットで書く才能を神様から与えられた人生でした」と語られた言葉が忘れられません。多病だった遠藤氏の旺盛な作家活動は夫人の献身なしには困難だったでしょう。遠藤氏の帰天の2カ月後には聖三木図書館で「遠藤周作作品読書期間」が設けられ、順子夫人も訪れています。夫の遺志を、『夫の宿題』として引き継いで講演、執筆活動に力を尽くされましたが、宿題を終え、夫との『再会』の願いを果たされたことでしょ。聖イグナチオ教会のクリプタに遠藤周作・母遠藤

郁と共に納骨されています。

当時の聖三木図書館の館長デーケン神父は遠藤氏が中心に行っていた日本キリスト教芸術センターでの勉強会に参加されていました。私はそこでデーケン神父と同席していましたが、遠藤氏の帰天後の会で「聖三木図書館に遠藤周作の本は全て入れます」との言葉を伺い、遠藤文学に関心のある人にはその情報を伝えてきました。遠藤氏と同様にユーモアで和ましてくれたデーケン神父も昨年帰天されました。



4月には、没後25年記念出版として、私も責任編者の一人を務めた『遠藤周作事典』(遠藤周作学会編)が刊行されました。実に膨大で多彩な遠藤作品の全容を初めて提示した事典で、新たな遠藤作品との出会いへと導く案内書にもなっています。

9月29日に帰天日を迎え、『信徒の友』(9月号)で〈特集 召天25年遠藤周作〉が組まれ、私は「生涯の歩みと追い求めた主題」と題した拙文を寄稿しました。『三田文学』(秋季号)でも〈特集 遠藤周作日記 死—キリスト—文学〉が組まれ、また未刊行作品を集めた短篇集『秋のカテドラル』と『薔薇色の門 誘惑』が河出書房新社から出版されました。

またテレビでは、昨年発見された未発表小説「影に對して」を取り上げたE.T.V特集「遠藤周作 封印された原稿」が放映され、遠藤周作論で卒論を書いている私のゼミ生も出演しました。彼女はコロナ禍で就活など将来への不安や人生の悩みのなかで遠藤作品に惹きつけられていく内心を語っています。私は授業で遠藤作品を取り上げますが、遠藤作品と出会うことで、様々な悩みや苦しみを抱える学生がその魅力に惹かれ、人生を支えてくれる遠藤文学の力を体験することも少なくありません。



さらに10月・11月にはNHKの「こころの時代」(宗教・人生)で、「2回シリーズ 遠藤周作没後25年 遺作『深い河』をたどる」が放映されました。この9月に『日本人にとってキリスト教とは何か 遠藤周作『深い河』から考える』を刊行した批評家の若松英輔氏と『遠藤周作『深い河』を読む—マザー・テレサ、宮沢賢治と響きあう世界』を刊行していた私が対談を上智大学のクルトゥルハイムで行いました。『深い河』の舞台のクルトゥルハイムは、遠藤氏が学生時代に通い、祈っていた聖堂であり、順子夫人との結婚式の場所であり、また、井上洋治神父が受洗した場所でもあります。学生時代から共に井上神父を師とした若松氏と私が、そうした祈りの刻まれた場において、遠藤周作没後25年特集の番組で『深い河』の主人公の一人の天津のモデルとして井上神父にも注目する対談を行うことになるとは、天の計らいですねと二人で感慨を漏らしました。対談の中で私が『『深い河』を読む』を連載していた『風(ブネウマ)』を遠藤氏に贈った返信としてもらった葉書に「我々世代の人生を完了するのも、そう遠くはありません。あなたたちが是非今度は頑張ってください」と記されていた言葉を紹介しました。これは遠藤氏が私や若松氏をはじめ、遠藤文学と井上神父に導かれた若い世代にバトンをわたす遺言でした。そして遠藤氏の人生が完了して25年経ち、今度は私たちが、二人から受け取ったバトンを次の世代にわたす働きをすべき時が来た」と意識しての対談でした。←



一面より続き

ところで聖三木図書館は、日本の人たちの心の琴線にふれるキリスト教を遠藤氏と共に生涯を賭けて求めた井上神父がその目的で創設した「風の家」の機関誌『風（ブネウマ）』を、創刊号から揃って読むことのできる唯一の場所です。私は1986年の創刊から35年編集発行を務めています。その間、多くの遠藤文学に関わる文章を掲載してきました。25年前の「遠藤周作氏追悼特集」の『風』43号が直ぐに品切れになったときは、聖三木図書館でお読みいただけますと伝えていました。

最後にこの記念の年を締めくくるとは、12月25日発行「遠藤周作帰天25年特集」の『風』111号です。遠藤文学と井上神父に導かれ25年前に司祭になった



伊藤幸史神父の「遠藤周作帰天25年追悼ミサ説教」、若松氏の「生と死を架橋するもの 遠藤周作とシュタイナー」をはじめ、今日の切実なテーマである死生観や、文学と神学をめぐる問題が論じられています。私は拙文で、遠藤文学は、孤独に苦しむ現代人の心の奥にある魂の渴望を明らかにすることで、自らの苦しみに寄り添ってくれる永遠の同伴者へと読者を導く働きがあることを示しました。コロナ禍にあつて横軸のつながりが希薄になる中、目に見えない縦軸でつながる永遠の同伴者イエスを描いた遠藤文学の意義はよりいっそう強まっているように思われます。そこに遠藤文学が没後25年経った今日も読み継がれる魅力があるのは確かでしょう。

これからも遠藤周作とゆかりのある聖三木図書館を通して、苦しみや悲しみのなかにある一人でも多くの人が遠藤作品と出会い、永遠の同伴者へと導かれることを願っています。

遠藤周作幻の短編小説『稔と仔犬』

12月19日のNHKニュースで、遠藤周作が作家活動初期に連載していた短編小説が見つかったと発表されました。この小説は「カトリック青年労働者連盟（JOC）」の機関紙「新世界」に連載され、休載の後再開されず未完となっています。当館ではこの掲載紙の原本をすべて保有していることを確認しています。国会図書館でも所蔵していない大変貴重な資料です。



『稔と仔犬』は2022年2月に出版される予定です。

聖三木図書館と僕と「遠藤周作事典」

『遠藤周作事典』編集委員 兼子 盾夫

キリスト教関連資料の専門図書館としての聖三木昔の図書館は何処でもそうだが、備え付けカードを引いて借りたい資料を借り出す仕組みだったが、聖三木はキリスト教、特にカトリック関連の資料に特化され開架式だったので見たいものは手に取ってすぐ見られた。

よく蔵書数の多さが図書館を測る物差しに使われるが、図書館は蔵書数よりも資料へのアクセスバリエーションが大事だ。聖三木にはハードバックだけでなく、カトリック関連の雑誌も揃っていた。僕は昭和45年に『世紀』に寄稿したが、その雑誌に載っていた辛口の『沈黙』評を、もし聖三木で見つけなければ、遠藤の『沈黙』には嵌らなかつたかも知れない。

なぜ遠藤か

近代日本の文学者は、有島は微妙だが、志賀直哉のように簡単に「卒業クリスチャン」になる。遠藤

は人一倍強い日本的感性（『神々と神と』参照）の持ち主だが、違和感を覚えたキリスト教をも決して棄てようとはせず、小説を書くことで生涯キリスト教と日本人の感性の距離を埋めようと努めた。彼にキリスト教を与えた母との強い絆と、結核再発後の手術（6時間に及び一度は心停止）から生還したことが大きい。彼は死の影の谷を一人で歩む時、常に傍にいて励まし、生かしてくれた同伴者イエスを発見したのだ。

遠藤山脈への最適なガイドブック『遠藤周作事典』

彼はじつに多産な作家で小説の他にも随筆、評伝、文藝評論、映画の脚本等々、質量共に並みの人の3倍は書いている。小説も純文学、中間小説、エンタメとある。しかも似たような題名の作品が多く、合本されタイトルが変わったり、中身が一部削除・追加されたりで書誌学的には研究者泣かせである。狐狸庵ものも『狐狸庵閑話』1965年桃源社もあるし、文庫本（角川）、さらには同じく桃源社の『狐狸庵閑話』（よく見ると背文字が『古今百馬鹿』とあり内容が異なる）がある。狐と狸に化かされたよう、心中穏やかでない。



狐狸庵ものはさらに続いて世に出るが、そういう錯綜した経緯は『遠藤周作事典』を紐解けば直ちに判明する。遠藤は結核の再発・手術と長期入院の間に身近で見た人間の生死を経験し、公私ともにそれ迄の生き方と決別したことが事典には記されている。勿論、『狐狸庵閑話』には「踏絵」「南から来た人」など同時期の『沈黙』の読解に参考になる記事も載っている。一般の読者も卒論、修論を控えている学生さんも是非一読ください。

今季のおすすめ図書

2021年下半期の新着図書の一部をご紹介します

	タイトル	著者
1	中世の写本ができるまで	C. テ・ハメル
2	ハンス・ヨナス未来への責任	戸谷洋志
3	パスカルと聖アウグスティヌス	P. セリエ
4	スタンフォード大学の共感の授業	Z. ジャミール
5	「利他」とは何か	伊藤亜紗
6	生涯学習のためのキリスト論	百瀬文晃
7	キリスト教の核心をよむ	山本芳久
8	イエスは戦争について何を教えたか 暴力の時代に敵を愛するということ	R. J. サイダー
9	危機の神学 「無関心というパンデミック」を越えて	若松英輔/山本芳久
10	悪の研究	岡田武夫
11	聖母マリアの御心崇敬 歴史的展開とその日本的・現代的意義	坂本久美子
12	この理不尽な世界で「なぜ」と問う ICU式「神学的」人生講義	魯恩碩
13	原罪論の形成と展開	上智大学中世思想研究所
14	イエスの「神の国」のイメージ ユダヤ主義キリスト教への影響史	大貴隆
15	聖書に聴く「人生の苦難と希望」	船本弘樹
16	どろどろの聖書	清涼院流水
17	遺跡が語る聖書の世界	長谷川修一
18	図説 旧約聖書の考古学 / 図説 新約聖書の考古学	杉本智俊
19	ユダよ、帰れ コロナの時代に聖書を読む	奥田智志
20	100語でわかる旧約聖書	T. レーマー
21	ヨブ記註解	並木浩一
22	すべてには時がある 旧約聖書「コヘレトの言葉」をめぐる対話	若松英輔/小友聡
23	み言葉打ち開くれば光を放ち 加藤常昭説教黙想集	加藤常昭
24	魂をもてなす 霊的同伴への招待	中村佐知
25	三浦綾子 祈りのことば	三浦綾子
26	ギリシャ正教と聖山アトス	パウエル中西裕一
27	バチカン大使日記	中村芳夫
28	「いのち」の力 教皇フランシスコのメッセージ	片山はるひ/原敬子
29	教皇フランシスコ コロナの世界を生きる	教皇フランシスコ
30	回勅 兄弟の皆さん	教皇フランシスコ
31	続 教会法で知るカトリック・ライフ Q&A40	菅原裕二
32	愛ひとすじに シスター江角ヤス伝記	妙摩光代

	タイトル	著者
33	聖ニューマンの生涯 教会の改革に生涯をささげた転会者の心の物語	柳沼千賀子
34	神を追いこさない キリスト教的ヴィパッサナー瞑想のすすめ	柳田敏洋
35	マリアの風に乗って	岡立子
36	真福 ここに幸あり	越前喜六
37	死を友として生きる	H. J. ナウエン
38	あなたはひとりではない イエスの奇跡が私たちに語りかけるもの	M. ルケード
39	アウトサイダーたちの太平洋戦争 知られざる戦時下軽井沢の外国人	高川邦子
40	中世ヨーロッパ ファクトとフィクション	W. ブラック
41	アンゲラ・メルケル 東ドイツの物理学者がヨーロッパの母になるまで	M. V. ランテルゲム
42	この社会の歪みと希望	佐藤優/雨宮処凛
43	わたしは「ゼロ弾きのゴージュ」 中村哲が本当に伝えたかったこと	中村哲
44	人は愛するに足り、真心は信するに足る アフガンとの約束	中村哲/澤地久枝
45	アンダーコロナの移民たち 日本社会の脆弱性があらわれた場所	鈴木江理子
46	ALLYになりたい わたしが出会ったLGBTQ+の人たち	小島あゆみ
47	剣を打ち直して鋤とする すべての命に然り	菊地讓
48	それでも一緒に歩いていく 牧ノ原やまばと学園50年の歩み	牧ノ原やまばと学園
49	つながり続けることも食堂	湯浅誠
50	ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー2	ブレイディみか子
51	第三の精神医学	濱田秀伯
52	ひとりで死なせはしない 日本人牧師、アメリカでコロナ患者を看取る	関野和寛
53	疫病の精神史	竹下節子
54	100年前のパンデミック 日本のキリスト教はスペイン風邪とどう向き合ったか	富坂キリスト教センター
55	白光	朝井まかて
56	愛に始まり、愛に終わる 瀬戸内寂聴108の言葉	瀬戸内寂聴
57	90歳、こんなに長生きするなんて。	曾野綾子
58	パトリックと本を読む 絶望から立ち上がるための読書会	M. クオ
59	生き抜くためのドストエフスキー入門	佐藤優
60	アレクシェーヴィチとの対話 「小さき人々」の声を求めて	S. アレクシェーヴィチ 他

聖三木図書館からのお知らせ

新型コロナウイルス感染拡大防止のためサービスに制限を設けており、ご不便をおかけしております。状況によりサービス内容を変更する場合がございますので、最新の情報はホームページ（Facebook）、留守電メッセージにてご確認ください。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

返却

返却が難しい場合は、必ずお電話またはお問い合わせフォームからご連絡ください。

返却方法：岐部ホール1F 返却ポストに直接投函
または郵送（郵送方法不問）
送り先：〒102-0083
東京都千代田区麴町6-5-1
岐部ホール2F 聖三木図書館 宛

問い合わせ

お問い合わせは以下の窓口より受け付けています。サービス状況の確認、調べている事柄に関連する資料の紹介や、調べ物のお手伝いをすることもできます。気になることがございましたら、ぜひお問い合わせください。

☎お電話から

電話番号：03-3262-0364
受付時間：11:30～16:00
（木曜・祝日・毎月末日休館）

■オンラインフォームから

ホームページからフォームにアクセスし、お問い合わせ内容をご記入ください。
質問内容によっては回答までにお時間を頂戴する場合がございます。



←問い合わせはこちらから

聖三木図書館報『みき』第12号

イエズス会聖三木図書館

〒102-0083

東京都千代田区麴町 6-5-1 岐部ホール 2F

TEL: 03-3262-0364

ホームページ:

http://www.jesuits.or.jp/~j_seimikibun/

題字:北爪悦子シスター(師イエズス修道女会)

貸出

事前予約による入館、郵送貸出を行っております。
（2021年12月現在）

☎お電話から＜事前予約による入館＞

ご希望のご来館日・時間帯、利用カード番号（またはお名前）をお伝えください。

☎お電話から＜郵送貸出＞

貸出を希望する資料（タイトル・著者など）、利用カード番号（またはお名前）をお伝えください。

■オンラインフォームから＜入館・郵送共通＞

ホームページからフォームにアクセスし、必要事項をご入力ください。

ホームページでは入館予約・郵送貸出について詳しくご案内していますので、ぜひご確認ください。



←入館予約・
郵送貸出申込
はこちら



←聖三木図書館
HP（貸出案内）

利用カードの申込・更新

聖三木図書館友の会発行の「聖三木図書館利用カード」（有効期間1年）の新規登録及び更新手続きは、来館せずに行うこともできます。登録をご希望の方はホームページをご覧ください。新規会員登録フォームをご入力いただくか、お電話にてお問合せください。

年会費 一般 2,000円
学生 1,000円
賛助会員 5,000円・10,000円
免許証・保険証など（学生の方は学生証）をご提示いただきます。

※臨時休館していた期間につきまして、利用カードの有効期限を延長しております。対象は有効期限が以下の会員の方で延長期間は①1か月、②2か月です。

対象：①2021年4月28日～2022年4月27日
②2021年7月14日～2022年7月13日